

2005年後期岡山観測所プログラム小委員会議事録

日時 2005年5月31日(火) 13:00~17:15
場所 国立天文台三鷹キャンパス小会議室
出席 長田哲也(委員長)、竹内覚、伊藤洋一、
青木和光、中村泰久、岩田生(プロ小幹事、書記)
ex. officio 吉田道利、泉浦秀行(HIDES担当者として参加)
欠席 村山卓(電子メールにてコメント提出)

1 前回議事録確認

議事録の確認を行い、了承された。

2 諸報告

特になし

3 岡山観測所ステータス報告

吉田所長から、2003年11月から2004年5月までの岡山観測所のステータス報告があった。詳細は別紙参照。特記事項を以下に記す。

(1) 2005年度の事業予定のうち主なもの

- ISLE: 2005年中に立ち上げを行い、2006年前期にまず観測所時間などで公開したいと考えている。
- HIDES モザイク化
- KOOLS 立ち上げ
- 京都大学 3m 級望遠鏡計画への協力

(2) 188cm 望遠鏡は大きなトラブルなく運用している。 HIDES および持ち込み装置(HBS、TRISPEC)も問題なく観測できている。

(3) 2005年後期の観測所時間希望

- 共同利用期間: 7/25-12/28 157夜
- 整備期間 9/5-9/25 の間の14夜:
例年行われている188cm望遠鏡の整備(グリスアップ)に加え、ドーム回転台車改修を行う予定。また、メッキの失敗があった場合、やり直しができるようバッファとしても確保しておきたい。
- 観望会(11月1夜)
- 観測所時間(サイエンス) 7-10夜
- エンジニアリングタイム: ISLE 14夜, KOOLS 6夜
- 日中韓共同惑星探査計画:
2005年前期から開始している。2005年前期には観測所時間からすべての時間を供出したが、独立した時間として認めていただきたい。1.5夜/月、計8夜。その代わりにサイエンスを従来の15夜から減らして希望する。
- したがって、観測所としては従来のエンジニアリング15夜、サイエンス15夜、計30夜よりも多い夜数(エンジニアリング20夜、サイエンス15-18夜)を希望する。

4 188cm 課題審査

(1) 課題申請申込状況

件数 プロジェクト(継続) 1件、一般 14件
分野別件数 銀河 0、恒星 14、星間物質 0、太陽系 1、その他 0
装置別件数 HIDES 12、HBS 3
要求夜数 216夜(プロジェクト 36夜、一般 180夜)
学位論文 修士 1、博士 3

(2) 共同利用夜数決定

観測所時間について、応募 1 件あたりの要求夜数が多く、夜数ベースの倍率が高いことを念頭において、観測所時間の希望のそれぞれの項目について、妥当であるかの吟味が行われた。

その結果、エンジニアリングタイムは ISLE14 夜、KOOLS6 夜は妥当な夜数であると認められた。

国際共同観測については、大学の研究者からすると突然始まった感じが強い、という意見が出され、観測所に対し、よりオープンな体制で観測を進めてほしい、という要望が出された。

議論の結果、観測所時間は、エンジニアリング 20 夜、サイエンス 7 夜、国際共同観測 8 夜、計 35 夜を認めることとなった。なお、HBS を装着した際のキャリブレーションのための夜数が観測所時間に入っている。共同利用観測に供される夜数は 107 夜である。

整備期間	14 夜
観測所時間	35 夜
特別観望会	1 夜
共同利用	107 夜
合計夜数	157 (7/25-12/28)

(3) プロジェクト観測について

- 継続のプロジェクトについては、レフェリーの評価はなく、プロ小での評価となっているが、今回から委員となった者としては、プロジェクト採択の際のレフェリーコメントを参照し、レフェリーの意見として心配されていた点などを、現状と照らし合わせて評価したい、という意見が出された。
- 議論の結果、課題の継続には問題ないが、一般の倍率の厳しさを考えると 33 夜程度にせざるを得ない、という結論となった。

(4) 一般観測の審査

議論を経て、以下のように割当夜数を配分した。(ただし、11 月に要求が集中しているため、実際のプログラムを組む際に若干の変動が避けられない可能性はある)

代表者	課題名	割当夜数	備考
佐藤 文衛	視線速度精密測定による G 型巨星の惑星サーベイ	33 夜	プロジェクト (継続)
竹田 洋一	太陽類似星の高分散分光観測 : Solar Twin 星の検出に向けて	5+10/2 夜	11 月下旬から 12 月上旬を今田ほかとシェア
永江 修	マイクロクエーサー LSI+61 303 の可視偏光観測による偏光起源の特定	10 夜	HBS
野上 大作	RS Cvn 型連星 V711 Tau の時間分解能高分散分光観測による恒星フレアの機構の解明 II	14 夜	
比田井 昌英	金属度-1 付近の硫黄の振る舞い	6 夜	
今田 明	Be/X-ray 連星 3A 0535+262 の近星点付近における輝線変動の観測	10/2 夜	竹田ほかとシェア
磯貝 瑞希	偏光分光測光観測に基づく共生星の軌道面傾斜角の決定と質量の評価	14 夜	HBS
豊田 英里	ドップラーシフト法による連星系の系外惑星探査	15 夜	
亀田 真吾	水星ナトリウム大気分光観測	(昼間)	

以上、一般観測の採択は 8 件。

学生の課題やプロポーザルに指摘しておくべき不備があるもの、要求夜数より大幅に少ない割り当てとなる見込みの課題などについてプログラム小委員会としてコメントを出すこととなった。

5 その他

(1) 岡山ユーズミーティング : 8/22,23 の予定

(2) 学生枠について

- 8月のユーズミーティングで議論し、了承されれば 2006 年前期から募集する予定。
- 光赤外専門委員会では了承された。
- 前期のみ観測可能な天体が対象の場合かどうか。→ とびとびで 2 回になる。修士、博士に関連する観測のサポートが目的なので、2 年以上の観測時間の保証をするつもりはない。

(3) レフェリーコメントについて

曖昧なコメントがしばしば見受けられた。具体的な問題点、改善点を指摘していただきたい、と伝える。他のレフェリーのコメント、およびプロ小からのコメントを伝えることとする。今回は事前に了解を得ていないので、個別に確認し、他のレフェリーにコメントを回すことを承認してもらえるか確認する。次回からはレフェリーをお願いする際、あらかじめ確認する。

(4) 申請書における技術的観測可能性の記述について

- テクニカルな記述が不十分であったり、天体リストなどに不備がある申請が少なからずあった。このことをふまえ、従来「研究の意義、目的」の欄に記入することとなっていた観測計画、夜数の根拠、技術的実現可能性などの記述をする独立した項目を作るべきか議論した。
- 海外を含めた他の望遠鏡への申請ではテクニカルな妥当性は独立した欄がある場合がほとんどであり、学生が岡山観測所への申請で訓練をする、という観点からも好ましい、という意見が出た。

- 議論の結果、次回から Technical Justification について半ページ程度の独立した欄を設けることとなった。

(5) その他の意見

- レフェリーの採点、評価、プロ小での審査を通して、保守的で、手堅い観測に偏っている印象を受けた。岡山観測所の将来的な発展の為には、チャレンジングな内容を積極的にサポートする姿勢が必要ではないか。
- HIDES の web での情報が少なすぎる。新たに観測を申請しようとする人にとって障壁となっていると思う。→ 改善するよう努力する (観測所)。

以上